

戦後農業・農村・農政を、どう総括するのかー前記3報告のコメント的考察ー

東京農業大学 磯辺俊彦

Coordinator（大川）のコメント：村研2000年大会のテーマ・セッションは、「日本農業・農村の史的展開と転機に立つ農政－第2次大戦後を中心に－」というテーマ設定になっており、テーマ・セッション全体の流れとしては、まずは coordinator の大川から「1. 解題」において、前記のとおり、戦後農政の推移と変化を試論的に提起し、次に「2. 東西日本における戦後農政の展開とその帰結」においては、東西日本の長年にわたる実証分析結果を通して、すなわち、西日本については大原興太郎（三重大学）氏によって、また東日本については細谷昂（岩手県立大学）氏によって、東海地方と山形県庄内地方の事例分析をとおして農業・農村の変化を農政の推移との関わりでご報告いただくことになっている。

それらの報告を受けた形で、「3. 21世紀農業・農村の課題」において、まず堀越孝良（農業総研）氏からは、「（1）食料・農業・農村基本法の形成プロセスと特徴」と題して、戦後農政の展開過程を概観する中で、戦後農政の基軸であった農業基本法（1961）と、いわゆる新農基法との比較検討をとおして、我が国の農政は21世紀へ向かう我が国の農業・農村に対して、いかなる方向性を提示したことになるのかをご報告願いたいと考えている。

そこで、最後に、磯辺俊彦（東京農業大学）氏には、主として前記3つのご報告を受けて、我が国の「戦後農業・農村・農政を、どう総括するのか」というテーマでご報告いただくことになっており、磯辺氏の総括内容を受けながら報告者間で意見交換をし、内容を深めていくければと考えている。

なお、ここからは coordinator の大川からの会員の皆様へのお願いであるが、農基法が唱えた選択的拡大や規模拡大という面では国内でもっとも典型的な展開を見たと言ってもよい北海道の事例や、中・四国、九州地方をフィールドとされている方々からは、open debate の時間帯では積極的な参加をお願いしたい。また、事前に大川までコメントを mail (okawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp) でいただけだと、大会当日の運営にとって大変助かりますので、よろしくご協力をお願いしたいところです。